

特集

# 若年認知症をもっと知ってほしい

## 安心して認知症だと言える社会へ

ここ数年、映画やドラマでも話題となった若年認知症。認知症は何も高齢の方だけに起こるものではありません。働き盛りの夫が認知症になったら…。子育てに夢を描く妻がなっ

### 若年認知症とは どういうもの？

若年認知症は、若年期認知症（18～39歳に発症した認知症）と初老期認知症（40～64歳に発症した認知症）の総称です。

患者数は、厚生省若年痴呆研究班による1996年の調査によると、人口10万人当たり32人。一方高齢者の認知症では7000～8000人と、こちらと比較すると少ないものの、若年認知症に多いピック病などは誤診されたり、診察を受けていない人もいると考えると、全国で10万人を超えるのではと言われています。認知症の原因となる疾患は、高齢者ではアルツハイマー型認知症と脳血管性認知症が大部分を占めるのに対して、若年認知症は、そのほか前頭側頭型認知症、アルコール性認知

症、頭部外傷後認知症など種類が多いのも特徴です。これらの特徴が発見の難しさや支援体制整備の遅れの要因となっているのでしよう。

### 若年認知症で悩むことは？

《若年認知症で生じる主な問題》

家庭内問題	介護者(配偶者)	介護疲れで燃え尽き、うつ状態となる病気を受け入れられず、精神不安定や家庭不和が生じる など
	子供	病気を受け入れられず、不登校や非行などの不適応症状を起こす病気の原因(遺伝しない)について悩む など
病気に対する誤解・偏見	家庭内	病気と思わず無理強いしたり、放置や暴力などで虐待する周囲に知られないよう、本人を閉じ込めたり介護サービスを拒む など
	社会一般	病気の知識がなく、偏見の目で見たり無関心である職場のサポートがなく仕事を続けられない など
経済的な問題	収入	これまで同様の仕事ができず退職し、収入が途絶える介護のために配偶者の就労が難しく、収入が減少する など
	支出	長期にわたって介護費・医療費が必要利用できるサービスが少なく、高額なサービスを使わざるをえない年齢的に子供の教育費や住宅ローンを抱えていることが多い判断力が低下し財産をだまし取られる など
制度的な問題		疾患によっては介護保険法のサービスが受けられない(39歳以下の発症については疾患内容に限らず受けられない) など

参考文献：若年認知症 本人 家族が紡ぐ7つの物語/2006年4月20日発行/中央法規出版  
雑誌「リノくる」vol.8/2006年5月1日発行/中央法規出版

### 【脳の健康度チェックリスト】

- ①毎日に1回以上、置き忘れがある。
- ②毎日に1回以上、度忘れがある。
- ③今日が「何月何日」なのか分からない。
- ④朝食の内容を思い出せないことがある。
- ⑤漢字が書けないことがよくある。
- ⑥計算の間違いが多い。または勘定をよく間違える。
- ⑦物の名前が出てこない。
- ⑧知り合いの人の名前が思い出せない。
- ⑨以前と比べて新聞やテレビを見なくなった。
- ⑩よく知っている道で迷ったことがある。
- ⑪毎日に1回以上、しまい忘れがある。
- ⑫元気で動けない。または仕事をやる気がしない。
- ⑬この1か月間、一度も電話をかけていない。
- ⑭野菜の名前を10個以上言えない。
- ⑮いつも孤独感や寂しい気分がする。
- ⑯会社や社会奉仕活動に全く参加していない。
- ⑰この1年間、旅行を全くしていない。
- ⑱話している言葉がよく聞えない。
- ⑳火の不始末がある。
- ㉑現在の総理大臣の名前を知らない。
- ㉒あくまでも参考ですが、5項目以上該当する場合は認知症の疑いがあります。

※脳馬車の忘れ物プロジェクト事業検討委員会作成のリストを一部改良  
出典：若年認知症 本人 家族が紡ぐ7つの物語/2006年4月20日発行/中央法規出版

また、介護保険制度の施設サービス事業所の中には、体力があり動きの活発な若年認知症の方を断ることも多く、一方、本人側も高齢者向けの内容では違和感を持ち拒んでしまうこともあるようです。

### 初期症状を見逃さない

最近物忘れが多いかも…。最初に症状に気づくのは本人ですが、この病気を知らなかったら？その後の生活も変わってきますよね。

### 「本人と家族を支えたい

#### ●「総合相談センター」の認知症専門相談

「気になる症状があっても若年期においては、考えられる病気がたくさんあり、診断名がつくまで時間がかかる一方で、その前に病院を転々と変える患者さんが少なくありません。継続受診をしてしつかり状態を伝えることが早期発見のカギになります。早期発見は進行を遅らせる可能性を持つとともに、家族ケアを早い段階からできる利点があります。家族で抱え込んでしまうことが多いですから、第三者の存在が絶対大きい

「気になる症状があっても若年期においては、考えられる病気がたくさんあり、診断名がつくまで時間がかかる一方で、その前に病院を転々と変える患者さんが少なくありません。継続受診をしてしつかり状態を伝えることが早期発見のカギになります。早期発見は進行を遅らせる可能性を持つとともに、家族ケアを早い段階からできる利点があります。家族で抱え込んでしまうことが多いですから、第三者の存在が絶対大きい

ですよ」と相談員である精神科の先生が教えてくれました。

### ●「認知症の人と家族を支える有志の会ほっと支援翼」

「ほっと支援翼」は、散策して摘んだ草花で十五夜の飾り物を作ったり、写真を撮り合って品評会をしたりと、月2回、若年認知症の方に日中活動の場を提供しています。専門スタッフ2名のほかボランティアも、認知症の家族の介護体験をした方が多いがこの会の特徴。スタッフの阿部栄理子さんと若生栄子さんに、若年認知症を取り巻く環境について語ってもらいました。

#### 「本人の願い・家族の思い」

若生さん 「自分でおかしいと気づいても、ご本人は必死でそれを隠そうとします。病院に行くのはきつと恐いでしょう。そのうち周りに気づかれギリギリになって受診になると思います。認知症チェックの本をこっそり買ってダンスの奥に隠していたと後から知り、一人で悩んでいたのかと愕然とされたご家族の話も聞きました」

阿部さん 「ご本人ご家族ともに、一番

の不安は社会から切り離される孤独ではないでしょうか。ご本人は、働きたい・役に立ちたい・社会の中で自分を生かしたいと願っています。介護保険サービスは高齢者向けに組み立てられ、求めるサービスと合わない現状がありますね。行き場がないと全て家族が抱え込んでしまいます。それは病気の進行を待っているようなもの。今を大切に生きるための支援が必要ですよ」

#### 「認知症の方と支援者は合わせ鏡」

阿部さん 「認知症の方って優しくてピュアなんです。混乱したり暴力をふるうのは対応や関わり方に問題があるから。感じる力はむしろ私達よりもあり、最後まで残っていると思います。私自身、父親の介護では後悔でいっぱいなんです。病気が進行していく姿、ただ受け止めなければならぬ悲しさ寂しさ、本当に辛いものです。ご本人やご家族はどんな思いなのか。経験したからこそわかることを皆さんに伝えていきます」

若生さん 「ほっと支援翼に来てご本人は変わりますよ。あまり表情の無い方が笑うようになったり。家にいる時ってご家族は大変

なんですよ。あんな笑顔を見ることがないと驚かれる方もいらっしゃると思います。ご家族が変わりご本人も変わっていかれます」

#### 「私達が大切にしたいのは、ほっとできる場所がある、ここに来ればわかってくれる仲間がいる、一人じゃないんだということ。このことが明日の勇気につながるのではないですか」

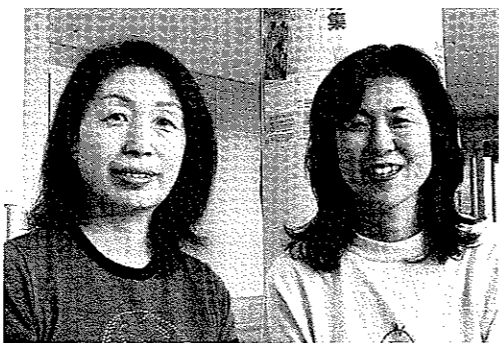
#### 「人・地域の大切さを教えてくれる」

若生さん 「支えてくれる家族や社会があれば、穏やかに認知症になれると思いませんか？衰え壊れていくだけだと思ったら不安で仕方ないと思います」

阿部さん 「いろんな人に助けられながら、地域で最期まで自分らしく！認知症になってもいいんだと受けとめてくれる所があれば頑張れる。認知症の方は、人と人と地域の本来の姿を私達に教えてくれていると思っています」

### 安心して認知症だと言える社会へ

認知症の方に優しい地域は、誰にとっても暮らしやすい生き生きとした地域でしょう。「私(私の



▲認知症の方への思いがあります！「ほっと支援翼」の若生栄子さん(左)と阿部栄理子さん(右)

家族)は認知症です」と安心して言える社会にしたいですね。(宮城県社会福祉協議会取材・作成)



●「総合相談センター」の「認知症専門相談」

<相談日> 毎月第4木曜日(13時30分～15時30分)  
※予約制、相談無料。

<相談場所> 宮城県社会福祉会館2階(仙台市青葉区本町3-7-4)

<相談員> 精神科医

<連絡先> TEL 022(223)1165

●「認知症の人と家族を支える有志の会ほっと支援翼」の「若年期認知症の方のための集い」

<開催日> 毎月第1・3木曜日(10時30分～15時)

<開催場所> 仙台市泉社会福祉センター(仙台市泉区七北田字道48-12)

<参加費> 1回500円(昼食代別途)

<連絡先> TEL 022(373)7613

※ボランティアも大募集！「あなたも一緒に楽しみませんか」